

海洋人間学 2020年度 成果報告

返子開成中学校・高等学校 海洋教育委員会

2020年度の実施状況

新型コロナウイルス感染防止対策のため、中学校では以下のプログラムを実施しなかった。

1. 遠泳 (中学3年)
2. OP ヨット実習 進水式 (中学2年)
3. 海洋学特別講義 (中学1、2、3年)

(参考) 高等学校においても、同対策のため海洋人間学講座 (土曜講座) を実施しなかった。

中学2年生 OP 実習報告書

<当日の様子>

- ・実施日 4月19日 (月) ABC組、
- 天気 晴れ
- 風 北→東→南東→南 0~5 m/s
- 波高 20 cm → 50 cm → 80 cm
- 潮 小潮 満潮 8:05 131 cm
- 干潮 15:53 27 cm 差 104 cm



- ・7:30 実施判断の時は風も弱く波も穏やか。大崎付近に波が出ていた。
- ・北風を想定してマークは2個設置。
- ・10時前からうねりが入り始め次第に崩れ始めた。
- ・風が右回りで変化しつつ南で4~5 m/sの風が入り波も高くなった。
- ・後半は波打ち際でひっくり返るヨットも出始めた。
- ・後半11時ころには風、波も高くなり帆走を続けることが困難になった。
- ・19日に帆走できなかった生徒11名を20日の2時間目に帆走させることになった。

風が弱い間は風向が定まらず難儀する生徒が大半だった。風向と波高が高くなるにつれて出艇できない生徒が多くなってきた。ラダープレートをピックUPするアイが外れた艇が2艇出た。破損も多くフェンダー、外板などにへこみや穴が開く艇が数艇出た。

朝の段階で海上の状況を予測することは難しく波高に至っては低気圧の影響もあり高くなったと予想される。正直なところ日程も厳しく、途中で中止も視野に入れて実施判断した部分もあった。

着替え場所については、生徒が密にならない工夫を今後も検討していく必要があると考える。

・実施日 4月20日(火) DEFG組

天気 晴れ

風 南 → 南南西 2~4 m/s

波高 30 cm~50 cm

潮 小潮

満潮 8:54 123 cm

干潮 17:05 34 cm 差 89 cm

7:30 実施判断時は風も微風で波も穏やか。若干うねりが目視できるくらい。波があがる傾向もないと思った。しかし、風向が南東から南が予測されたので、海岸中央トイレ横(東側)に本部を移動した。ポートタックで出艇、スターボードタックで着艇するコース設定を想定した。(マークは1個)ヨットの移動や準備が終了するか不安はあったが8:10に準備を終えた。風は安定していてマークの設定は良かったと思う。

帆走の様子は、マークに向けることができなく海岸に流される生徒が多かった。

マークに向けてメインシートを引くことができない事が原因だと思われる。

陸上で出艇の位置を東側(風上側)に誘導できたので問題は帆走技術の指導不足だと思う。

海岸に流されているヨットをマーク付近までレスキューボートで引っ張り本部方向へ帆走するように指示を出した。

午後に向けて風速が上がる傾向だったのでローテーションを滞ることがないようにするための対応だった。

近年の傾向として、日程を優先して実習のコンディションが良くなくても行う傾向にあると思う。生徒の満足度を考えると、北風で波のない日に実施することが望ましいが現実的ではないと思われる。

より充実したヨット実習のあり方について、具体的には実習の最終目標や生徒の教育的効果などをあらためてふりかえり、検討することも必要なのかもしれない。

主軸をヨットの帆走技術に置くのか、経験から視野の広がりを期待するのか、その他の事について学びを深めていくのか。

<生徒の感想文>

・最初の方は穏やかだったが自分の番になると波が高くなり海に引き込まれそうになった。

自然の怖さを改めて実感した。

・今回はヨットの組み立て方を事前に授業で学んだのでヨット部に頼りきらず行えた。

帆走自体も中学1年生の頃より上手くできた。

・前回と海や気候の条件が違うだけでヨットの進み方が大きく変わっていた。

ヨットは気候の影響を受けやすい乗り物だと感じた。

- ・波が立っていてヨットが不安定だったが体重移動を利用して上手く乗り越えることができた。帆の向きで速さを変えられることに気付いた。

< 中学ヨット部の振り返り >

- ・ Google workplace のジャムボードを利用して情報を共有した
- ・ 課題意識が高く、どうすればクラスメイトが安全に帆走出来るかを真剣に考えていた。

2021.5.22(SAT)

議題 次回(秋)のOP実習に備えて

Q2. 実習中はどんなサポートした？
OP実習は何のために行うのか？
ヨット部として大事なことは？ → 自分の経験を活かして仲間に還元する

【安全面での配慮】

風上の方にヨットを向ける→南風

波が来た時にバウを持ち上げて乗客が入れないようにした

ヨットに水が入ってしまったら一ヨットを確保に近づけて一斉に離れを出した

ヨット同士の距離を開けた

【アドバイス】 相手が理解出来る言葉、レベルで

ラダーの使い方
上げるタイミング

降ろす
確認・解錠の手動で一文字出す、口を出す

降りるタイミング

センターボードの上
げ下ろし

メインシートの持つ場所

中学1年 「海洋人間学」 × 「総合学習」 ～海の土曜講座を企画する～

2020年度は探究活動の基礎を身に付けてもらうため、試行的に中学1年生の総合学習の時間を利用して海洋人間学を実施した。このプログラムは東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターとの連携事業であり、探究学習の手法を用い、生徒に「海に関する土曜講座」を企画してもらった。ただし、新型コロナウイルス感染症対策のため、当初予定していたプログラムを縮小した。

実施期間

2021/1/12～2021/3/19

実施目的

- ① 今後、探究活動を本格的に行う際に必要となる、学校図書館の基本的な使い方を理解する。【知識・技能】
- ② 「(海に関する) 探究テーマを定め」「関連する情報を調べ」「その成果を他者にわかるようまとめる」という、探究活動の基本的な流れを実践し理解する。 【思考・判断・表現】
- ③ 土曜講座として実現する可能性のある企画を立てることを通し、自身の学びと学校参加が関係する

ことを理解する。【学びに向かう力・人間性】

- ④今後の学校生活の中で、逗子特有の環境である海を「体験の場」としてだけでなく、「探究の場」としても活用できることを理解する。(学校の特色活用・教育課程特例校)

実施内容

回	月日	内容
第1回	1/12	海への総合的理解を通して探究のテーマを検討する
第2回	1/19	海で起きる問題を通して探究のテーマを検討する
第3回	1/26	海に関する知識や関心を整理し問いをつくる
第4回	2/09	問いの探究のための情報利用の方法を理解し実践する
第5回	2/16	集めた情報をもとに問いを深め、企画書にまとめる
第6回	3/09	探究したいテーマを土曜講座の案として発表①
第7回	3/19	探究したいテーマを土曜講座の案として発表②

生徒の企画例

「サンゴの白化を調べてみよう」、「バイオリングをやってみよう」、「海洋プラスチックの身近さを知る」、「塩分濃度による海水の循環」、「海洋生物への酸性雨の影響」、「なぜ深海の生き物は光るのか」、「海中の騒音を聞いてみよう」など

生徒の感想例

<授業から得られたこと>

- ・ 通常の授業では得られない海洋への知識を獲得することができ、周辺にある「海」への探究の起因となったこと。
- ・ 身近にある海が私たちといかに密接に関係しているかを知ることで、より一層海への興味関心が高まった。さらに、企画書を一から自分で作ることで物事を整理して考える力や、順序立てて話す力が身についたと思う。

<海洋に対する意識の変化>

- ・ 海洋に関するニュースを見るようになった。
- ・ 海洋問題には地球温暖化が大きく関わっていること。
- ・ 未知の部分があることや海の複雑さを意識するようになった。
- ・ 海洋プラスチックなどの海の環境問題に目を向けるようになった。

<その他>

- ・ 一年間、総合学習が楽しかった。
- ・ 図書館で調べる時間がもっと欲しい。
- ・ パソコンを用い、インターネットで調べたい。

分析と今後の展望

今年度は、中学1年の総合学習に本校の教育の大きな特色である海洋教育を、試行的に取り入れてみた。「海に関する土曜講座を企画する」という課題に、探究学習の手法を取り入れて実践した。当初、中学1年生には少々難しいと考えていたが、こちらの予想以上に生徒の取り組みは良かった。小学校時代から探究的な取り組みができている生徒も年々増えているようだ。生徒の感想にもあるように調べる時間や対話をする時間、グループ学習などを取り入れて、さらに発展させたい。